市長読み上げ文

「地域の安全、安心な暮らしを市民とともに考える会（意見交換会）」

１．皆様、本日はお忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございます。本日は、日米共同統合演習（キーン・ソード２７）に関して、市が把握している情報を皆様と共有するとともに、市が行った申し入れや要望事項についてお伝えし、地域の安全と安心な暮らしについて、皆様とともに考える場にしたいと考えております。

２．先ず、今回の演習につきましては、１０月２日に沖縄防衛局より通知を受けました。

３．本市での訓練は、１０月１９日（月）から２９日（木）までの期間で予定されており、参加人員や装備品の輸送に伴い、宮古空港と平良港が使用される計画となっております。訓練の前後約１週間は準備・撤収期間として設定されているため、１４日から適宜、陸上自衛隊や米軍の航空機が宮古空港を使用している状況が確認されております。

４．訓練の主な内容は、日米の共同調整所の運営訓練、部隊や装備品の展開訓練、船舶による輸送訓練を実施するとの説明を受けております。

５．今回の演習は、これまでにない規模で実施されるものであり、市民の皆様の中には、日常生活への影響や安全面について、不安や懸念を抱いている方もいらっしゃると思います。

６．特に、先日、沖縄本島で米海兵隊員が殺人事件の容疑者として逮捕されたことは、誠に遺憾であり、今回の演習に米軍人が参加することについて、市民の皆様が不安を感じられるのは当然のことと受け止めております。市長として、こうした不安を決して軽く考えることはありません。

７．一方で、私たちの住む先島諸島を取り巻く安全保障環境が厳しさを増す中で、万が一に備え、国際的な抑止力や対処力を強化するための日米共同統合演習の必要性については、平和維持という観点から理解せざるを得ないと考えております。ただし、訓練の必要性を理解することと、市民の不安や懸念をそのままにしてよいということは、全くの別問題です。

８．訓練に賛成する方にも、反対する方にも、それぞれの思いや理由があります。どちらか一方の声だけを聞くのではなく、双方の声に真摯に耳を傾け、市民の安全と安心を守ることを最優先に取り組んでまいります。

９．市としましては、１０月１３日に、副市長が沖縄防衛局を訪問し、本演習の実施に関する要請を行ってまいりました。

１０．具体的には、

・市民生活と経済活動への影響を最小限にとどめること。

・安全管理を徹底し、特に住宅密集地上空の飛行を避けること。

・民間船舶や航空機への影響を与えないよう十分配慮すること。

・演習の目的や必要性、安全性について、透明性のある丁寧な情報発信を行うこと。

・演習終了後は、訓練の内容等について事後検証を行い適切に公表すること。

そして、市民の皆様の不安を軽減するため、本市での演習期間中の米軍関係者の外出禁止を強く求めました。

１１．これに対して防衛局からは、安全管理を徹底することや市民生活への影響を最小限に抑えるよう十分に配慮すること、航空機の運用については住宅密集地上空の飛行を極力避けること、演習の目的や必要性、安全確保のための取り組みなど、市民に対する情報提供に努める旨の返答がありました。

また、訓練終了後の検証結果についても、可能な範囲で情報発信

することが示されました。

さらに、演習期間中の米軍人の外出を控えるよう、防衛省として様々なレベルで米側へ働きかけているとの回答をいただいております。

１２．私は、市民の平穏な生活や地域の安全を守ることが市長としての責務であると考えております。演習が本市で実施されることについて、市民の皆様が抱く懸念や不安を真摯に受け止め、市が把握した情報は迅速に公表するとともに、国や関係機関に対して引き続き丁寧な説明と透明性のある情報提供を強く求めてまいります。

１３．市民の皆様には、様々なご意見があると思います。市としては、その一つ一つを真摯に受け止めながら、平和を守るための備えと、市民の安全で安心な暮らしの両立に全力で取り組んでまいります。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。